



11月の
特集

一人ひとりが戦争と向き合ったあの時代。過去、現在、そして未来へとつなげていく「歴史」と「想い」。

MAINICHI
新毎日

はがきで綴る、戦争の記憶

千の証言展

～70年前のあの戦争を人々はどう生きたのか～

戦後70年の節目に、戦争の悲惨さと平和の尊さを活字や映像で記録し、未来への「道しるべ」を残す試みとして、東京都内3会場で開催された「千の証言展」。毎日新聞社とTBSテレビの共同プロジェクト「千の証言」に寄せられたはがきなどを展示した同展示会を、ここ福島県でも開催します。戦争の記憶が風化していく今だからこそ、当時の様子を振り返る意味があります。人々は戦争をどうとらえ、どんな思いで生きたのか。ぜひその目で体感ください。

11月10日(火)～13日(金)

コラッセふくしま3階企画展示室 福島市三河南町1-20
9:00～17:00 (最終日は16:00まで、入館は閉館の30分前まで)

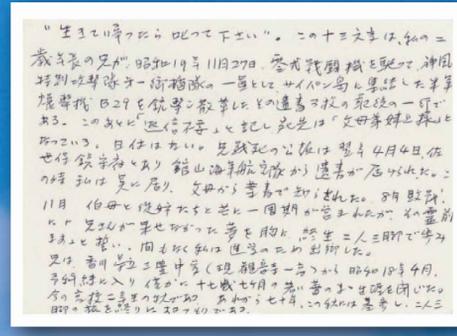
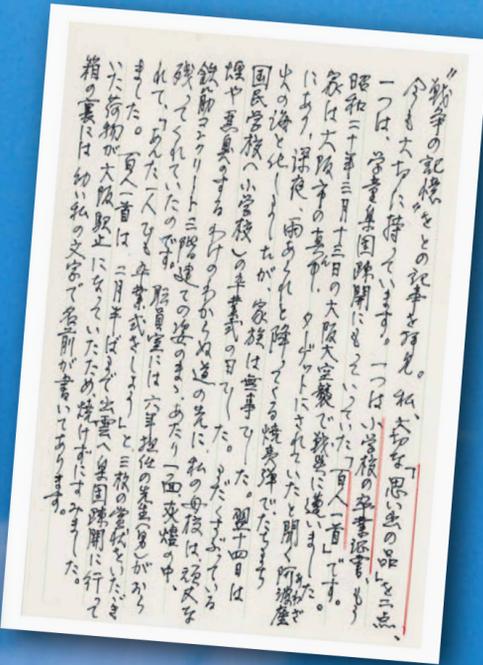
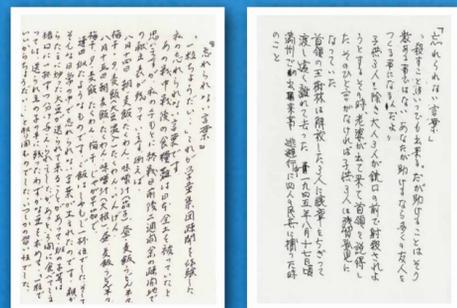
入場
無料

「一粒でいいからちょうだい……」
親元から送られてきた大豆を分け合う疎開先での生活。終戦間際の献立。

「あんた一人でも卒業式をしよう」
大阪空襲の翌日、焼け残った国民学校で受け取った卒業証書。

「生きて帰ったら叱ってください」
特攻隊として戦死した兄の遺言。

「殺すことはいつでもできる。助ければ多くの友人をつくる」
満州で逃避行。銃口を向ける民兵を制した現地の女性の一言。



戦時中の様子や戦後の模様を当時の記録と共に振り返ります。



▲2015年6月19日(金)の1面

毎日新聞福島支局長
さか まき しろう
坂巻 士朗



昨年8月15日、毎日新聞の1面で「千の証言」は始まりました。福島県白河市で青果店を営む90代の男性が、メモ帳に手に証言しました。「次は自分の番だと思った」と。終戦の4ヶ月前、出征したフィリピンで食糧がなくなり、病死や自決で仲間が減った。最後の一人もある朝、冷たくなった。「次は……」。男性は敗戦を知らないままジャングルで生き延びた経験を振り返り、「あの戦争は何だったのか」と繰り返しました。
記憶の伝承——。戦後生まれが国民の8割を占める今、戦争の時代を生き抜いた人々の証言は重要性を増しています。1枚1枚のはがきを読み、1人1人の証言者と対面するにつれ、取材班はその思いを強くしました。「悲惨な戦争の記憶を風化させず、平和の尊さを忘れないでください」。はがき呼びかけ、そんなメッセージに触れてください。

千の証言展 基調講演会

11月10日(火) 18:00～19:30 (開場17:30)
コラッセふくしま4階多目的ホール

入場無料
※入場整理券が必要です

●演題「千の証言から平和を考える」

講師 毎日新聞編集委員
すなま ひろゆき
砂間 裕之



講演概要

千の証言には、TBSテレビを含め1,600通近い投稿が寄せられました。激烈な戦地での体験、今も夢に見る空襲の恐怖、そして戦時下の貧しい暮らし。家族や友人を亡くしたり、家を焼かれたりして絶望のふちを見た人々の悲しみが、はがきにはあふれています。愚かな戦争は二度と起こすべきではないという思いを伝えたい。はがきを通して戦争とはなにか、平和な世の中がなぜ大切なのか、一緒に考えましょう。

■略歴
1985年、毎日新聞入社。大津支局、奈良支局を経て、大阪本社特別報道部、社会部などで、主に医療報道や平和報道に携わった。その後、東京本社人事部長、大阪社会部長を歴任。現在は東京本社編集委員として「千の証言」を担当している。

《基調講演会お申し込み方法》

参加には入場整理券が必要となります。入場整理券をご希望の方は、7ページ目のハガキをご利用ください。または、官製はがきに「氏名(ふりがな)」「郵便番号」「住所」「電話番号」および「千の証言展基調講演会」と明記の上、下記宛先までお申し込みください。入場整理券をお送り

します。定員になり次第締め切らせていただきますのでご了承ください。
●申込書到着後随時に入場整理券をお送りします。
●定員になり次第締め切らせていただきます。
●連名でお申し込みの場合は、必ず同伴者のお名前もご記入ください。

定員
300名

〒960-8104 福島市豊田町2-3(三宅新聞店内) 毎日新聞福島支局読者室 千の証言展事務局 まで

主催/毎日新聞社 後援/福島県教育委員会 福島市教育委員会 福島民報社 スポーツニッポン新聞福島支局 テレビユー福島 ラジオ福島 協賛/三宅新聞店

お問い合わせ

毎日新聞福島支局読者室 千の証言展事務局 (三宅新聞店内)

0120-334-025 (10:00～17:00)

三宅新聞店

検索